

## 廃炉工程全体の枠組み



- 第1～3期という大きな期間区分に基づいた廃炉工程。
- この枠組みは、2019年12月に改訂された中長期ロードマップにおいても維持。
- 燃料デブリは2021年内に2号機から取り出しを開始予定。

※燃料デブリの取り出しは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、取り出し機器の開発が遅延していることから、1年程度後ろ倒しになる可能性あり。

東京電力福島第一原子力発電所（福島第一原発）では、廃炉に向けた取組が続けられており、現在では、各号機ともに原子炉の冷却が維持されるなど、安定した状態が維持されています。

福島第一原発の廃炉は、世界にも前例のない困難な事業であり、国も前面に立って、「東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」（中長期ロードマップ）に基づき、安全かつ着実に対策を進めることにしています。

2019年12月に、中長期ロードマップを改訂し、初号機の燃料デブリの取り出し方法を確定しました。30～40年後の廃止措置完了の目標に向け、引き続き、安全を最優先に、廃炉作業を進めていきます。（注1）

（注1）燃料デブリの取り出しは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、取り出し機器の開発が遅延していることから、1年程度後ろ倒しになる可能性あり。

本資料への収録日：2018年2月28日

改訂日：2021年3月31日